



ワクチンで予防できる子どもの主な病気

定期接種

◆ 四種混合ワクチンで予防します

【ジフテリア】

のどについてのジフテリア菌が増えて、炎症を起こす病気です。38度以上の熱と、犬の遠吠えのようなせきが特徴で、重症になると呼吸困難や神経麻痺、心筋炎を起こし死亡することもあります。

【百日せき】

連続したせきが長く続き、急に息を吸い込むので、笛を吹くような音をともなう呼吸困難、チアノーゼ、けいれんなどが起こる病気です。乳児では無呼吸状態になることがあります。肺炎、脳炎を併発することがあります。

【破傷風】

土の中にいる破傷風菌が傷口から体に侵入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開かなくなることが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなったりします。

【ポリオ】

小児麻痺(しょうにまひ)とも呼ばれます。かかっても無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、症状が出る場合は、熱が下がった後に片方の手足に麻痺(まひ)が出ます。

◆ BCGワクチンで予防します

【結核】

せきや発熱が続く病気ですが、子どもの場合、せきなどの症状はあまりみられません。赤ちゃんの場合は、粟粒結核(ぞくりゅうけっかく)や髄膜炎(ずいまくえん)など重症になりやすく、後遺症が残ったり、死亡したりすることもあります。

◆ 麻しん風しん混合ワクチンで予防します

【麻しん(はしか)】

熱、鼻水、せきなどの症状ではじまり、熱はいったん下がった後、また上がります。特有の赤い発疹は顔から全身へ広がります。子どもには重い病気です、かかると肺炎や気管支炎を合併することもあり、死亡する例もあります。

【風しん(三日はしか)】

発熱、赤い発疹、首のリンパ節の腫れの3症状が特徴の病気です。熱が出ないことも多く、かぜに似た症状で、ふつうは3日程度で治ります。重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病になることもあります。

定期接種

◆ 日本脳炎ワクチンで予防します

【日本脳炎】

感染したブタを刺した蚊がウイルスを運んできてヒトに感染し、脳炎を起こす病気です。ヒトからヒトへはうつりません。かかっても大多数は無症状ですが、脳炎になると高熱、けいれん、意識障害がでます。治療が難しく、死亡や重い後遺症の危険があります。

◆ 小児用肺炎球菌ワクチンで予防します

【肺炎球菌感染症】

肺炎球菌による病気です、脳を包む髄膜で炎症を起こす細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎などを起こします。髄膜炎は早期診断が難しいため重症になりやすく、死亡や重い後遺症の残る例もあります。

◆ Hibワクチンで予防します

【Hib(インフルエンザ菌b型)感染症】

インフルエンザ菌b型という細菌(冬場に流行するインフルエンザウイルスとは全く別のもの)による病気です、細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎、肺炎などを起こします。5歳までにかかることの多い病気です。髄膜炎は早期診断が難しく、重症化します。

◆ 水痘ワクチンで予防します

【水痘(みずぼうそう)】

強いかゆみのある赤い水疱をともなった発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。

◆ ロタワクチンで予防します

【ロタウイルス感染症】

下痢やおう吐、白い便が出るなど胃腸炎をおこします。重症化すると、脳炎や脳症を起こすこともあります。また、感染症が強いために保育園などで流行します。

任意接種

◆ おたふくかぜワクチンで予防します

【おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)】

発熱とともに片方または両方の唾液腺(耳の下からあごにかけての部分)、特に耳下腺が腫れる病気です。ふつう1~2週間で治りますが、無菌性髄膜炎や脳炎を合併することもあります。難聴(片側)になることもあります。

◆ インフルエンザワクチンで予防します

【インフルエンザ】

悪寒や発熱、関節痛などの全身痛などの全身症状がみられる病気です。赤ちゃんがかかると気管支炎や中耳炎、肺炎を合併することもあります。脳症を起こすと死亡や後遺症の危険が高くなります。